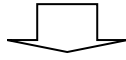


1 本村小学校の使命

子どもは天からの預かりもの。社会が望む人間（社会にでたときに本当に役立てる人間

→ 港区：夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え行動し、未来を創造する）にしてあげることこそが子どもの幸せ



○ 社会に出て、自分の得意を生かして人の役に立ちたい（＝ 夢を叶えたい）と思う児童の育成

・人の役に立つ（＝ 周りの人を喜ばせる）ことに喜びを感じられる児童【心情】

・自分が大好きなことで誰かの力になれることをやる児童【実践】

↑

誰かのために役立っている自分、世の中のためになることに必死に取り組んでいる自分、そのような自分を感じるとき自然に自己肯定感が高まっていく。

2 目指す学校像

幸せな（わくわくする）学校

— 今日が楽しく、明日も来たい（期待）学校 — 児童も大人も

・「快」ではなく、「甲斐」のある学校

<評価規準>

学校を取り巻くすべての人に「いい学校だね」と言ってもらえる。

3 目指す児童の姿

人と人とのつながりを大切にする、笑顔あふれる児童

※世の中で一番の社会貢献は自分がご機嫌でいること、笑顔でいること

育てる資質、能力

人間関係（信頼関係）を築く力

自己肯定感

あきらめずに挑戦し続ける心

⇒ 国際的に活躍できる人材の育成につながる

4 本校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、知性・感性・徳性に富み、広く国際社会に信頼と尊敬を得られる児童の育成を目指す。

○ すすんで学ぶ子

◎ ひとの気持ちを考える子

○ 体をきたえる子

5 教育スローガン

全力でやさしくあれ

6 中期的経営目標（6年間で）

全ての教育活動を通して児童の「人間関係（信頼関係）を築く力」を高める

○ 世界で通用するコミュニケーション力

- ・異文化理解の前に異文化許容

私には分からないけれど、あなたにとってはそれが大切なんだと分かるということ

○ 助け合い、認め合い、励まし合う態度

○ 我慢、寛容、謙虚などの自分をコントロールする力

⇒ 周囲の様々な異質な他者とうまく関われるようにならない限り、真の自己肯定感は手に入らない。
思いやりをもって人と協調することを重視する日本では、人に気を遣うことができ、人とうまくやっていくことができれば、自己効力感が高まり、それが自己肯定感（自分が自分であることに満足し、価値ある存在として受け入れられる）につながる。

7 今年度の取組目標と具体的方策

社会に出て、自分の得意を生かして人の役に立ちたいと思う子が育つ学校

◎ 「チーム本村」学校、保護者、地域、図書館、大使館、消防署、警察署、麻布中高生プラザなどのいろいろな人材との協働・連携による学校運営

視点1：人権教育に根ざしたやさしい心を育むとともに、規範意識を醸成する学校

【いじめ防止推進事業の充実】【国際理解教育の充実】

視点2：「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の三本柱を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業を工夫する学校

- ・高学年専科制の取組（5、6年の理科・国際・家庭科専科制
2～4年の国際科専科制 全学年学期で1度は交換授業を実施）
- ・ICT機器（特にタブレット端末）を効果的に活用した授業の充実

視点3：豊かなスポーツライフのために健康教育を推進する学校

【健康な体づくり】

- ・握力の向上を図るために全学年、年間を通してのボルダリングの実施
- ・運動に親しむ態度を養うために運動委員会の啓発活動（本村チャレンジ等）の実施
- ・専門家（ミライクなど）の指導による運動技能の向上

視点4：保護者、地域、関係諸機関などの教育資源を最大限に活かした体験的な学習を進め、地域を愛し我が母校を誇れる児童が育つ学校

【環境教育の充実】

今年度の重点取組 視点1、視点4

- ◎ 外部人材を積極的に活用し、本村小の特長であるダイバーシティー（多様性）を生かした教育活動を推進することで目指す学校像に迫る。全教職員が、組織として同じ方向で教育活動を行い、凡事徹底を図る。

視点 1

やさしい心を育むとともに、規範意識を醸成する

- 1 自分を大切にするとともに、お互いのよさを認め合い、協力できる児童を育成
 - (1) 「あんぜん、あいさつ、あつまり、あとしまつ」の4つの「あ」を重視：廊下歩行の徹底
高陵アカデミーや児童会によるあいさつ運動の推進 5分前行動 椅子を机に入れる
 - (2) いじめ防止への取組：毎月の生活アンケートによる未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、組織的対応（担任→学年→校内いじめ対策委員会）、WEBQU を活用
 - (3) ハートフルウィーク（教育相談週間）の実施。高学年は2回実施
 - (4) 人権週間、人権標語、人権集会の実施
 - (5) ふわふわ言葉使用の励行 「ありがとう」「お願いします」「すばらしい」
- 2 多様性を生かした教育活動を推進
 - (1) 本村幼稚園との運動会や給食、授業などの日常的な交流
 - (2) 若竹学級（特別支援学級）、なでしこルーム（特別支援教室）の機能を強化【特別支援教育の充実】
 - (3) 縦割り班活動の充実
- 3 規範意識を醸成
 - (1) 本村小スタンダード及び本村 SNS ルールの徹底
 - (2) 善悪指導ではなく、「ならぬものはならぬ」を全教職員が粘り強く統一した指導
 - (3) ルールありきではなく、自らの頭で考えて行動する児童を育成（特別活動の工夫）

視点 4

地域を愛し、学校を愛する心を養う

- 1 キャリア教育の推進
 - ◎ 「何のために学ぶか」を考えさせるとともに、学ぶ意欲を高め、児童の得意な分野をより伸ばす教育を推進
 - ◎ 長所を伸ばすことによって自信をもって生活できる教育を推進
 - (1) 保護者やゲストティーチャーを活用して、多様な働き方についての学ぶ場を設定
 - (2) 企業が実施しているキャリア教育プログラムの活用
- 2 教育資源の活用を推進
 - (1) 行政・関係諸機関との連携
模擬選挙、租税教室などの体験的な学習をさらに拡大
地域性を生かした大使館関係者による授業を実施
 - (2) 新たな教育課題への対応
専門家を招いてのプログラミング教育の実施
- 3 環境教育の充実
 - (1) 環境委員会主導によるフードロスやごみの削減、コンポスト、節電などの取組
 - (2) ビオトープの年間を通した活用
 - (3) ブックオフとの連携による古本の査定及び販売体験
- 4 地域の行事への積極的な参加
児童・教職員が地域の祭りやPTA行事などに積極的に参加
- 5 学校地域支援体制の確立を準備（地域学校協働本部の活用）
より多くのプログラムを実施するために地域コーディネーターを配置

その他

- 1 学校の教育活動の理解啓発を図り、地域・保護者の協力を得るための積極的な情報発信
 - 学校ホームページやがくぷり等を活用し、学校の取組を周知
- 2 教育活動の改善の迅速化
 - (1) 評価を短期的に行い、教育活動の改善を早期に実施
 - (2) 学校行事後の反省に基づき、次年度の計画案を年度中に立案し、必要な情報を発信
(P→D→C→A→P)
- 3 信頼される学校づくり
 - 服務事故ゼロの学校
 - 危機管理体制が確立している学校
- 4 働き方改革の推進
 - 情報の5Sに取り組むとともに「所有から共有へ」の意識改革